

親鸞教學

伝統に二種あり	曾我量深 1
道徳の限界 —浄土の経典(6)—	金子大栄 12
莊嚴と廻向(4)	安田理深 23
浄土信仰の内景	臼井元成 38
本願の宗教	本多恵 50
<hr/>	
体失往生と不体失往生	藤原幸章 61
親鸞の発想法について	松野純孝 79
<hr/>	

16

大谷大学真宗学会

問うて曰く、一切衆生に皆仏性あり。

遠劫よりこのかたまさに多仏に値うべし。

何に因てか今に至るまで、すなわち自ら

生死に輪廻して火宅を出でざるや。

答えて曰く、大乘の聖教によるに

良に二種の勝法を得て以て生死を排は

ざるによってなり。是をもって火宅を出でず。

何者をか二とする。

一にはいわく聖道、

二にはいわく往生浄土なり。

学会彙報

編集後記

○昭和四十五年度は、四月十五日に入学式挙行、二十日から講義が始まった。

○新年度から広瀬泉教授と伊東慧明助教授が辞職され、同時に研究室の松井憲一助手と杉浦慧敬嘱託も辞任し、広瀬教授と松井助手は、非常勤で講義に來られることになった。

○五月一日付けで、江上淨信氏を助手に、小林光紀氏を特別研究生として迎え研究室業務もようやく軌に復した。

○五月二十六日、真宗学会新入会員歓迎会を、釈穀亭にて開催した。学外に場を移したためあつてか盛会というよりも、落着いたふんい気の中に活発な話し合いをもつことが出来た。

○真宗連合学会大会が開催された。五月三十一日に、東京本願寺で大会発表並びに懇親会が、一方、神田一ッ橋・共立講堂にて公開講演会が行われ、翌六月一日・二日と、関東の御旧跡を巡拝した。

日に日に新たな曾我先生の思索ですが本号は昨年度の講義から収録しました。

金子先生には、いつもながらご不自由な眼を押してご寄稿願うのですが、本号も書下し原稿を頂いております。

安田先生はようやく退院されましたが引続き自宅療養中ですので、当分の間、旧講の整理を載せて行こうと存じます。

臼井先生には、学会の若手の先生を代表して、また本多恵氏には、大学院博士課程終了を期として執筆頂きました。

藤原先生には、昨年度秋の大会の発表を基に、書下して頂きました。

松野先生には、同じ大会の発表を編集部で筆録したものに加筆して頂きました。雑誌所収を快諾され、筆録に丹念に加筆下さったことをここに感謝します。

なお編集の都合上、今年度講義題目を掲載できませんでしたので、できれば次号に載せたいと存じております。

(本多)

昭和45年7月10日 印刷
昭和45年7月20日 発行

親鸞教学 第16号 辛 259

京都市北区小山上総町22

大谷大学真宗学会

親鸞教学編集部

発行人 松原祐善

大谷大学真宗学研究室 振替 京都 8225番

京都市中京区寺町通三条上ル

文栄堂書店

振替 京都 2948番

京都市下京区七条御所ノ内町50

中村印刷株式会社

電話 (313) - 0468番

編集
発行

発売

印刷

親鸞
教学

第十六号

昭和四十五年七月二十日 発行

大谷大学真宗学会